



管理デバイス 1,000台以上

エンドポイントマネージャー クラウド版導入事例集

PC・スマホ・タブレットの一元管理をクラウドで実現 「使いやすい」管理コンソールで、充実の「IT 資産管理機能」と「MDM 機能」を実装

01 | IT 資産管理ツールをクラウド化したい

エンドポイントマネージャー クラウド版は一般的な IT 資産管理ツールと同等の PC 管理に必要な機能を網羅。社内のシステムのクラウドシフトを推進するお客様において、IT 資産管理ツールのクラウド移行を支援します。

02 | 所在を問わないデバイス管理を実現したい

エンドポイントマネージャー クラウド版はデバイスがインターネットに接続されていれば、オフィスワークやテレワーク、これらを組み合わせたハイブリッドワークにおいても、デバイスの所在を問わず管理できます。

03 | PC・スマホを一元管理したい

iOS・Android 管理に欠かせない Apple Business Manager・Android Enterprise に対応。PC だけでなく、現在多くの組織で利用されるスマホ・タブレットの管理をエンドポイントマネージャー クラウド版で実現します。



モバイル端末の業務活用にMDMを刷新 端末管理とセキュリティ対策を強化

ITツールを活用し進化するというミッションの元、業務利用として支給した約1,000台のモバイルデバイス管理に MDM が必要でした。

盗難紛失対策、アプリケーション管理などの資産管理に加え、位置情報や操作ログの取得機能などが備わっているなどのカバー範囲が広い所に魅力を感じ、導入を決めました。

一 故障時の対応の迅速化。分かりやすさで現場からの問い合わせ無し

運用面でのメリットとして、端末の故障時の対応がスピーディに行えるようになった点が挙げられます。端末を取り替える場合は、前のアカウントを消し、新しい端末にアカウントを設定しますが、エンドポイントマネージャーの設定は簡単なので、空の端末を送り、マニュアルを配布して、利用者側でエンドポイントマネージャーの設定や他の業務アプリの導入を行ってもらっています。

一 デバイスの利用状況の可視化によりコスト対策にも活用

これまで把握できなかったアプリも可視化することができ、業務と関係ないアプリを入れているデバイスを発見・管理しやすくなりました。

また携帯代金のコスト最適化にも期待できると思います。通話の利用状況を把握することで通話料に適したプランの見直しなど、端末の有用性も可視化する事ができています。



サービス業

デバイス 1,040 台

管理 OS iOS

管理部署 保険・CR推進部

検証デバイス1,000台の管理に エンドポイントマネージャーを採用 利用料金以上のコスト削減を実現！

全国5拠点に散らばる約1,000台の検証デバイスの管理を Excel ベースで行っていましたが、更新のし忘れや誤入力などで正確性を維持できていないのが現状でした。複数の MDM 製品を比較し、エンドポイントマネージャーの「資産管理機能」を活用すれば検証デバイスの管理を実現できると考え、導入を決めました。

— OS・機種混在の台帳を自動作成、一元管理で正確性UP + 手間削減

エンドポイントマネージャーは、デバイスの OSバージョンや OS タイプ、通信キャリア情報など最新のデバイス情報を収集し、自動で管理台帳を作成できます。台帳更新の手間もかからず、管理画面にログインすれば正確な情報をすぐに確認できるので、効率的に検証デバイスの管理を行うことができ、助かっています。

— 無駄なデバイス購入を阻止！デバイスの稼働状況を確認しコスト削減

電源 OFF デバイスを稼働管理レポートから確認でき、デバイスが本当に使われているかを簡単に把握できるようになりました。

デバイスの購入依頼があった際に、使われていないデバイスを配置できるので新規購入を抑えることができます。エンドポイントマネージャーの利用料を上回るコストを削減でき、費用対効果の高さを実感しています。



サービス業

デバイス 1,400 台

管理 OS iOS iPadOS Android

管理部署 総務部

iPad から 2in1 の Windows PC に移行 管理ツールにエンドポイントマネージャーを採用！

以前はiPadを活用していましたが、業務内容を加味し、PCと同じ使い勝手で利用できる 2in1 の Windows PC へ移行しました。しかし以前の MDM は、WindowsOS の対応ができておらず盗難紛失対策が求められていたところ、エンドポイントマネージャーで位置情報を取得できる点にメリットを感じ導入を決定。MDM 入れ替え作業工数も少なく済みしました。

— Excel と MDM の “二重管理”を解消！エンドポイントマネージャー で一元管理！

以前は、Windows を配布している社員の名前や所属部署などはMDMではなくExcelで管理していました。

エンドポイントマネージャーの優位点は、紛失対策に加えて、管理コンソール上でExcelと同様のデバイス管理ができることでした。毎月、事業所間の異動があり、所属部署や利用者が変わることもあるので、管理コンソールから簡単にデバイス情報の変更ができる点はとても魅力的に感じています。

— 万が一の紛失時に備えて、Windows でも位置情報を取得

iPad を導入していた頃は MDM で位置情報を取得していました。そのため、紛失時にはまず位置を確認することができました。Windows に移行してからも数ヶ月間は同じ MDM を利用していましたが、位置情報取得機能が Windows には対応していませんでした。幸いにも紛失は発生していませんが、万が一のことを考え、やはり位置情報を取得したいと考えました。その時にちょうどエンドポイントマネージャーの提案を受けて、同じコストで、今できていないことができるようになるならと、MDM の入れ替えを決めました。



サービス業

デバイス 1,100 台

管理 OS Windows Android

管理部署 総務部

利用状況を「見える化」し、 スマートフォンの活用を促進！

スマホ導入により業務における利便性は高まりますが、経営側としては、業務外の操作やプライベート利用やコストに見合う活用ができるのかを懸念していました。

しかし禁止するだけでは、スマホの利便性を活かさない！ということで利便性を担保しつつも、可視化による管理ができるエンドポイントマネージャーの導入を決めました。

— アプリの起動回数・時間を分析、スマートフォンの有効活用へ

スマホ導入当時は、なかなか進まない名刺管理アプリに対し、アプリを起動していない社員もいる事が分かり、社内通知を徹底する事から始めました。結果、利用時間が前月比1.5倍に増加し、名刺も順調に集めることができています。

また業務に活かせるアプリを独自に導入・活用する社員が居る事も分かり、ノウハウとして社内事例として発信しています。

— 万が一の時も、位置情報の自動取得が紛失デバイスの発見に貢献

エンドポイントマネージャーの位置情報が活躍しています。

紛失連絡があった社員に位置情報を元に『最後に示されている場所はこの辺りだよ』と伝えると、紛失ではなく家に忘れただけだった事が分かりました。

1日どこで何をしていたかというのは、紛失に気がついた直後は冷静でいられなくなり、思い出せないようです。



サービス業

デバイス 1,200 台

管理 OS Android iOS

管理部署 総務部

全国 18拠点のグループ会社所有の iPhone 1,400台の管理を実現

iPhone の本格導入に際し、MDMを3製品ほど検討。iOS 管理機能は Apple 社の規格に基づいた機能のためどの製品も大きな機能差分がなく、最後は管理コンソールのわかりやすさで導入を決めました。

— アプリカタログを利用して、必要なアプリのみインストールできる体制に。

以前より App Store の利用は禁止して、必要なアプリがあれば都度、アプリを配信していました。しかし、iPhone を利用する人が増えるにつれて、利用したいアプリも多岐に渡るようになり、その都度デバイスにアプリを配信、アップデート管理を行う工数が増えて、負担となるようになりました。

そこで、アプリカタログ機能を利用することにし、必要なアプリはカタログに公開して、iPhone 利用者が自由にインストールとアップデートをしてもらえる運用に変更しました。業務に必要なアプリのみ使ってもらいたいという目的は維持したまま、運用工数を下げることができて、とても満足しています。



利用者が自身のタイミングで、アプリをインストール・アップデートできます。

デバイス

1,400 台

管理 OS

iOS

通信キャリア・OS 混在環境でも効率的に管理！ 決め手は、資産管理機能

以前はキャリア毎に MDM が分かれていたため管理が非常に面倒でした。エンドポイントマネージャーはキャリアやOSが混在の状態でも一元管理ができ、さらに管理デバイスの情報を一覧で確認ができるなど資産管理機能が充実していたので導入を決めました。

一 紛失・盗難対策にも効果的！

30分間隔でデバイスの現在地情報を自動で取得。デバイスを社員が紛失した際にもエンドポイントマネージャーの移動履歴を確認すると飲食店に立ち寄った形跡があったため本人に確認し、そのお店に確認するとデバイスを発見できました。位置情報はいざという時に役に立つので助かっています。

一 ルール違反デバイスをアラートメールで確認+注意

パスワードポリシーや不許可アプリ設定など、予め設定したルールに違反したデバイスの情報が管理者にメールで通知されるので、わざわざ管理コンソールにログインしなくても状況を把握できるので助かっています。

デバイス

1,700 台

管理 OS

iOS iPadOS Android



Android Enterprise を利用 デバイスの利便性を担保し、セキュリティ対策を実現

以前はキャリア毎に MDM が分かれていたため管理が非常に面倒でした。エンドポイントマネージャーはキャリアやOSが混在の状態でも一元管理ができ、さらに管理デバイスの情報を一覧で確認ができるなど資産管理機能が充実していたので導入を決めました。

Android Enterprise × エンドポイントマネージャー で利便性とセキュリティを両立

情報漏えいの危険性がある会社が認めていないオンラインストレージ系のアプリは、Android Enterprise を利用して、インストールを禁止しています。一方で、アプリのインストールを全面的に禁止してしまうと、デバイスの利便性を損なってしまうので、ある程度の自由度をもたせています。そこでエンドポイントマネージャーの操作ログを活用して、不要なアプリの利用が無いか、定期的にチェックする運用を敷いています。

1,500台の台帳管理を実現、所有者情報やデバイス情報を管理

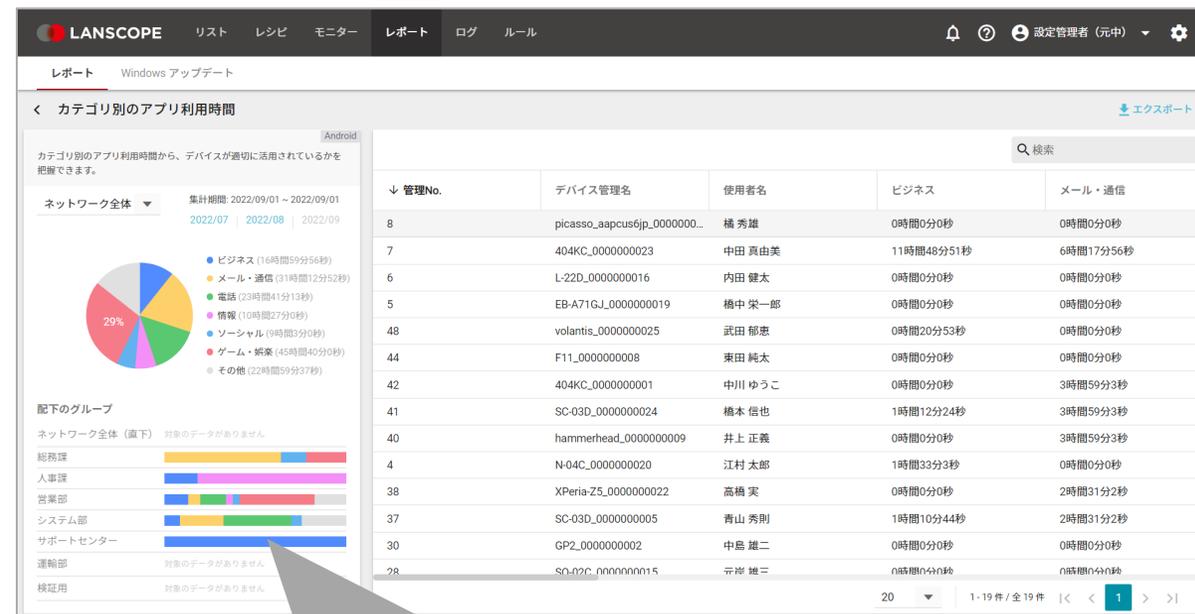
以前は Excel ファイルで1500台の所有者やデバイス情報を管理していましたが、更新の手間がかかる点や正確性が低いことが課題でした。エンドポイントマネージャーであれば、所有者の部署や名前の情報も一覧で表示されるので、確認も効率的に実施することができ助かっています。

デバイス

1,500 台

管理 OS

Android



アプリの利用状況をカテゴリ単位でレポート化。ひと目で利用状況を把握できます。

60日間無料で体験できます！

体験版を利用したお客様の7割が製品版をご導入いただいています



設定したポリシーや取得した情報をそのまま製品版へデータ引き継ぎが可能です

LANSCOPE エンドポイントマネージャクラウド版の体験版は 60日間たっぷり利用できます。十分に機能を検証していただき、ご検討ください。設定したポリシーや取得した情報を含め、そのまま製品版へのデータ引き継ぎが可能です。

また体験版利用中も、弊社サポートセンターにお電話やメールで問い合わせが可能。マニュアルやオンラインで学べるトレーニング動画も公開しています。

MOTEX

製品に関するお問い合わせ

■ 営業本部

大阪本社	06-6308-8980
東京本部	03-5460-0775
名古屋支店	052-253-7346
九州営業所	092-419-2390
E-mail	sales@motex.co.jp

ご購入後の製品利用に関するお問い合わせ

サポートセンター	0120-968995（携帯・PHSからは06-6308-8981）
お電話受付時間	9:30～12:00/13:00～17:30（平日、祝祭日除く）
E-mail お問い合わせ	support@motex.co.jp

・記載の会社名および製品名・サービス名は、各社の商標または登録商標です。

・MOTEX はエムオーテックス株式会社の略称です。